

聖体礼儀

单音名古屋版

2015

聖体礼儀

輔祭 君よ、祝讃せよ、

司祭 父と子と聖神の国は崇め讃めらる、今も何時も世世に、

(詠) アミン

【大連禱】



主あわれめよ 主あわれめよ 主なごに アミン

輔祭 我等安和にして主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 上より降る安和と我等が^{たましい すくい}靈の救の為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教會の堅立、及び衆人の合一の為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 ^こ此の聖堂、及び信と^{つつしみ}慎と神を畏るる心とを以て^こ此に來る者の為に主に禱らん (詠) 主憐めよ

輔祭 教會を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教ダニイル、司祭の尊品、ハリストスに因る輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 我が國の天皇、及び國を司る者の為に主に禱らん。 (詠) 主憐めよ

輔祭 ^{こ まち およそ まち}此の都邑と凡の都邑と地方の為、及び信を以て^{こ うち お}此の中に居る者の為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 氣候順和、五穀豊穰、天下泰平の為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 航海する者、旅行する者、病を患ふる者、^{うれ}艱難に遭ふ者、^{かんなん}虜となりし者、及び彼等の救^{とりこ}の為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 我等^{もろもろ}諸の^{うれい}憂愁と^{いかり}忿怒と^{あやうき}危難とを免るるが為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を^{たす}助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に

司祭 ^{けだし}蓋凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に(詠) 「アミン」

[第1アンティフォン]第102 聖詠

トロバリ1調のメロディによる

アミンに引続き

わがたましいや主をほめあげよ、主やなんじは
霊 讃 揚

あがめほめらる、わがたましいや主をほめ
崇 讃

あげよ、わがちゅうしんやその聖なる名をほめあげよ、
揚 中 心 セイ ナ 讃 揚

わがたましいや主をほめあげよ、かれがことごと
霊 彼 念

とくの恩をわするるなかれ、かれは汝がもろもろ
オン 彼 詔

の不法をゆるし、汝がもろもろのやまいをいやす、
フ ホウ

光 えいはちちと子とせいしんにきす、いまも
コオ 父 聖 神

いつも世々にアミン、わがたましいや主をほめあげよ、
(両方)

わがちゅうしんや、その聖なる名をほめあげよ、主や汝は
中 心

あがめほめらる
崇

【小連禱】

輔祭 我等復又安和にして主に禱らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人と
 を記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリスト
 ス神に委託せん、 (詠) 主爾に
 司祭 蓋爾は善にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、
 (詠) 「アミン」

第2 アンティフォン【145 聖詠】

光 榮 は ち ち と 子 と 聖 神 に 帰 す

我 が た ま し い や、 主 を 讚 め あ げ よ、 我 生 け る う ち
霊 は

主 を 讚 め あ げ よ、 我 生 命 あ る う ち 我 が か み に う た わ ん
いのち 神 歌

④ ぼ く は く に よ る な か れ す く う あ た わ ざ る
牧伯 救 能

人 の 子 に よ る な か れ、 彼 い き 絶 え れ ば つ ち に か え ー り

お よ そ か れ が は か る と こ ろ は そ の 日 に 消 ゆ、
彼

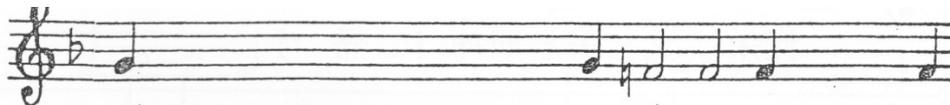
⑤ 主 は え い 遠 に 王 と な ら ん シ オ ン や、
永

なん じ の か み は 世 世 に 王 と な ら ん

【神の独生の子】



いまでもいつも 世世に アミン



神の独生の子 並びに言葉や死せざる

カミ ドクセイ

ナラ

コト

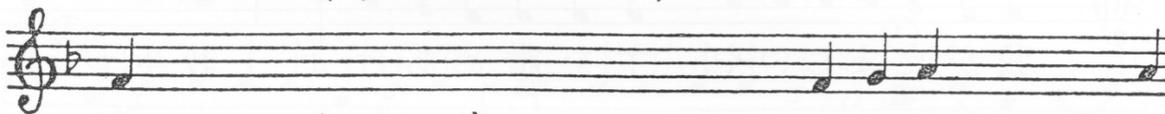
バ

ヤ

シ

セ

ザル



者にして我等を救わんが為あまじて聖なる生神女

スフ

タメ

シヨウシンジョ

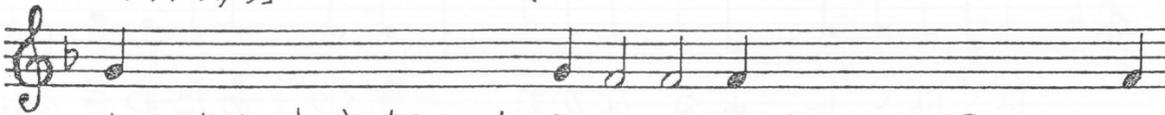


永貞童女マリヤより身を取り、神の性をかえずして

エイテイドウジョ

ミ

セイ



人となり十字架に釘うたれ、死をもって死をふみ



やぶりし父トかみや聖三者のいつとして、ちち

ス

ス

カミ

ヤ

セイ

サン

ジャ

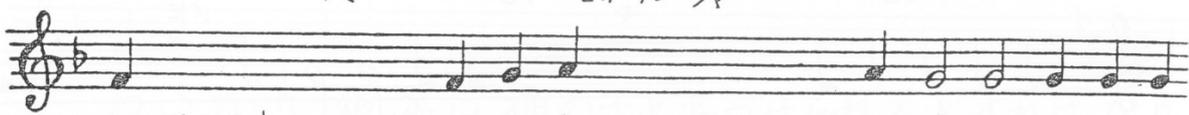
ノ

イツ

ト

シテ

チチ



と聖神とともにさえいせらるるの主やわれら



をすくいたま え

【小連禱】

輔祭 我等復又安和にして主に禱らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋國と権能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」



主あわれめよ 主あわれめよ 主なんじに アミンア - - ミン

【第3アンティフォン】真福九端(マトフェイ5:3)

オビホード、トロパリ1調のメロディによる



主よ、なんじの国に来たらんとき 我等を憶いたまえ



心の貧しきものはさいわいなり 天国は彼等のものなればなり

泣く者は^{さいわい}福なり、／彼等は^{なぐさめ}慰を得んとすればなり。

溫柔なる者は^{さいわい}福なり、／彼等は^つ地を嗣がんとすればなり。

義に飢え渴く者は^{さいわい}福なり、／彼等は^あ飽くを得んとすればなり。

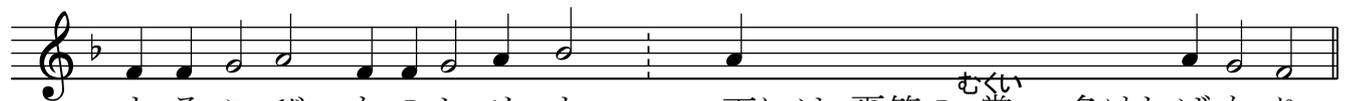
^{あわれみ}矜恤ある者は^{さいわい}福なり、／彼等は^{あわれみ}矜恤を得んとすればなり。

心の清き者は^{さいわい}福なり、／彼等は^あ神を見んとすればなり。

和平を行う者は^{さいわい}福なり、／彼等は^あ神の子と名づけられんとすればなり。

義の為に^{きんちく}窘逐せらるる者は^{さいわい}福なり、／天国は^{もの}彼等の有なればなり。

人我が為に^{なんじ}爾等を^{のし}詬り^{きんちく}窘逐し、／^{なんじ}爾等の事を^{いつわ}譎りて^{もろもろ}諸の^{ことば}悪しき言を言はん時は、^{なんじ}爾等^{さいわい}福なり。



よろこび たのしめよ 天には爾等の^{むくい}賞多ければなり

【小聖入】



来たれ^ス分^スのまえにふしをがまんかみの子



死より ぶくかつせし主や、なんじにアリルイヤ

生神女の祭日: 生神 — 女の祈禱に よって

聖人の祭日: 聖人に 厳かに 現るるの 主よ



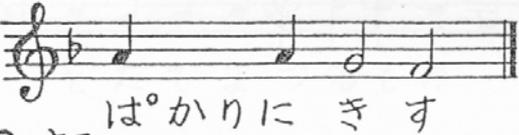
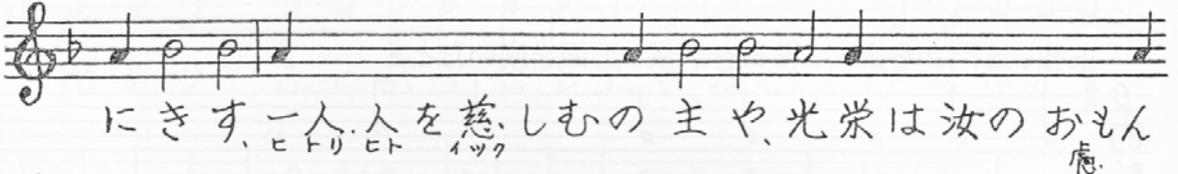
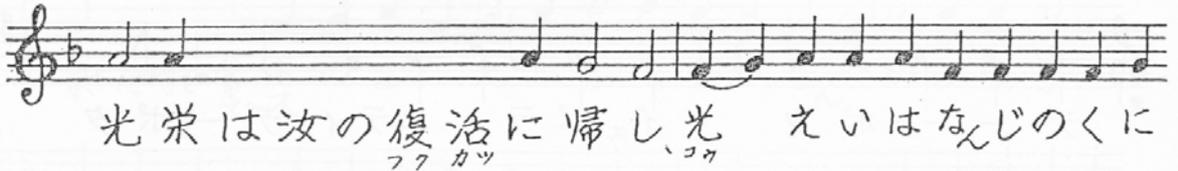
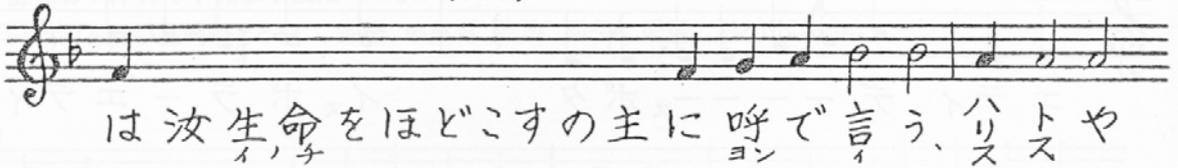
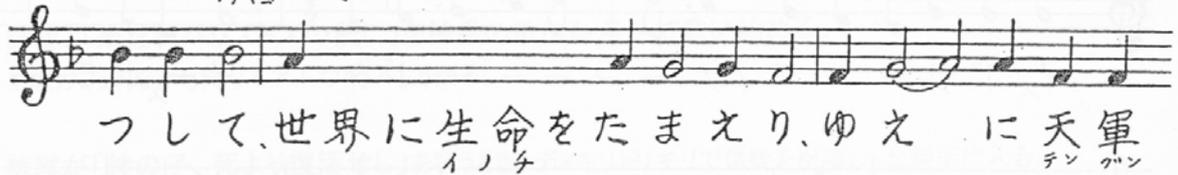
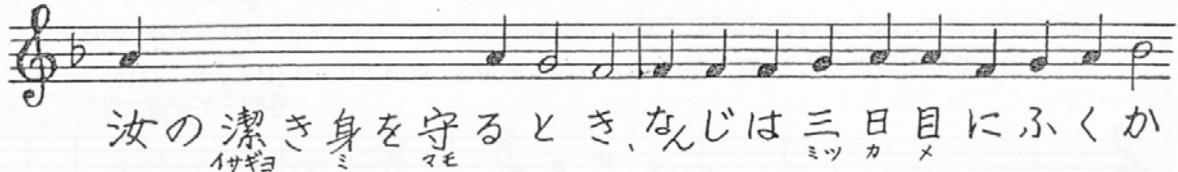
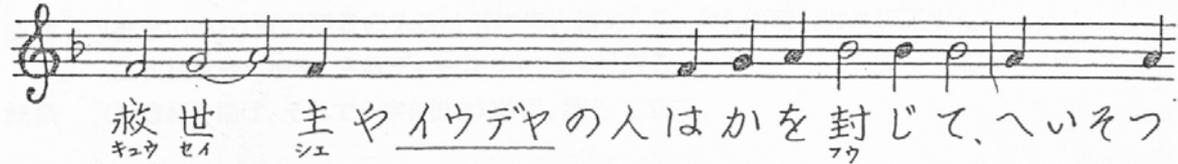
をたてまつるもの をすくいたまえ

【トロパリ、コンダク】日曜日は主日トロパリ、祭日は祭日トロパリなど

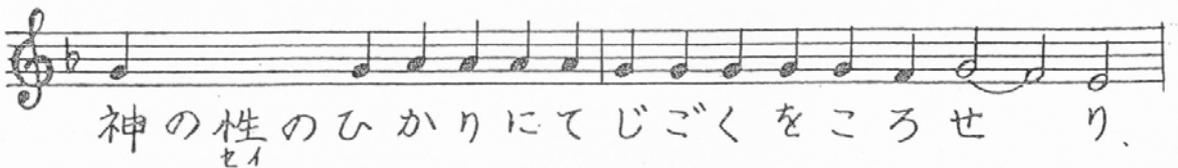
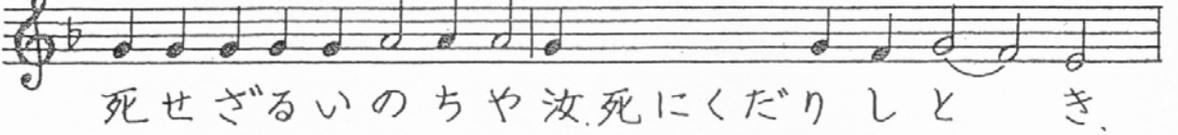
主日トロパリ 8つの調のうち指定された調ひとつ

[主日の復活トロパリ](八調経による)

1 調



2 調



死せしものを地下より復活せしめしとき、

天軍みなよんで言えり、生命をたもうの主分よわが

かみや、光えいはなんじに帰す

3 調

天にあるものたのしめよ、地にあるものよろこ

べよ、主はそのひじのちからをあらわして死を

もって死をほろぼし、復活のはじめとなり

われらを地獄のはらよりすくい、世界に大

いなる憐れみをたまえばなり

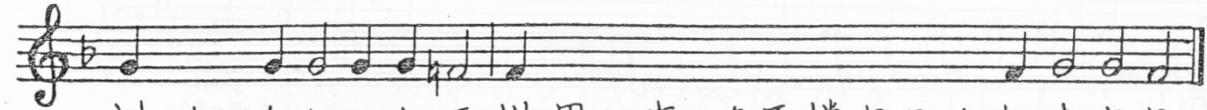
4 調

主のおんな弟子は復活の光るおとづれを、かみ

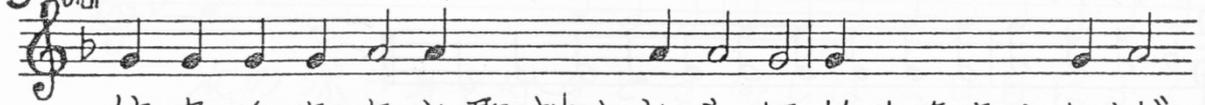
の使より聞きうけて、元祖よりの定罪をふるい



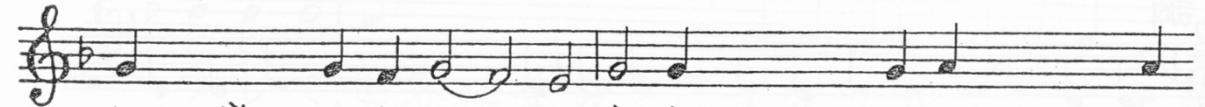
すて使徒シトにほこりて言えり、死は亡ホロぼされ分トス



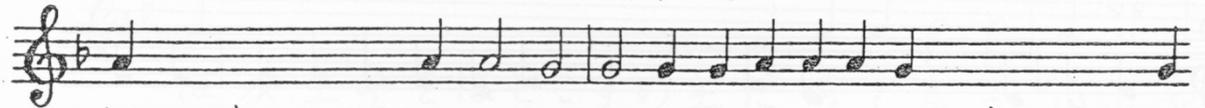
5 調 神はふくかつして、世界に大オオなる憐れアワみをたまえり



信者シンやちちと聖神シヤとともに、始めハジなきことは



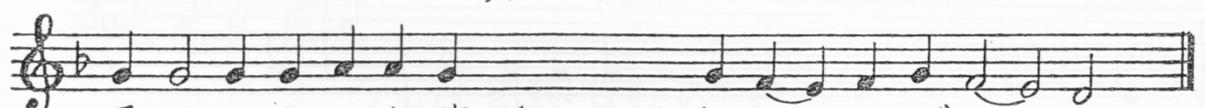
わが救スクいのため に、童貞女ドオ テイ ジョよりうまれしものを



讃ホめ歌ウタうて捧オガむべし、かれあまじてその身にて十字架



にのぼり、死シを忍シびその光栄オウエイのふくかつにて、

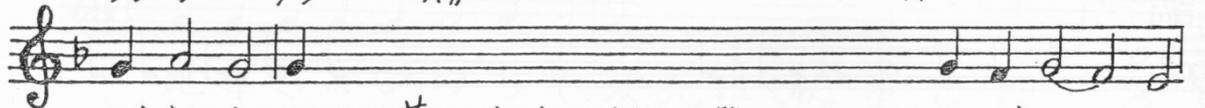


死せしものを復活コクワツせしめたまえばなり

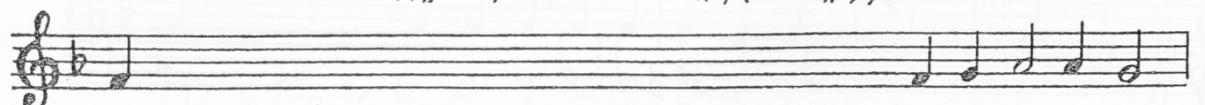
6 調



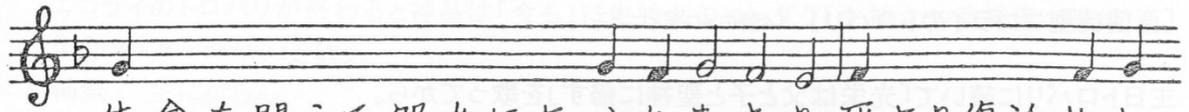
神使シンの軍シ汝グンの墓ハカにあらわれしに、番兵バン死ペイせる者の



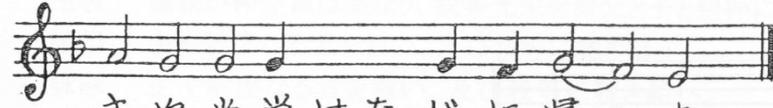
ごとし、マリア墓ハカに立ちて汝タの潔イサキよき体カラダをたづねり



汝ジは地獄ゴクにいざなわれずして地獄ジをとりこにし、

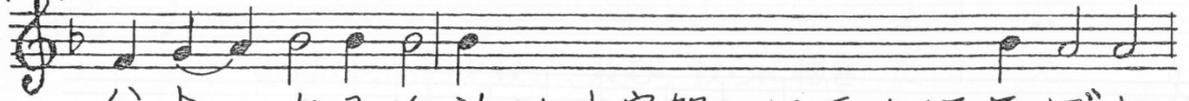


生命を賜うて処女にあいたまえり、死より復活せし
イノチ タモ シヨ ジョ



主や、光栄はなんじに帰す

7 調



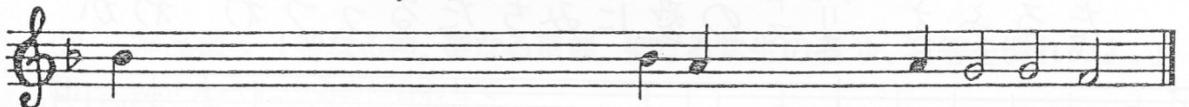
ハリス かみや、汝は十字架にて死をほろぼし、



盗ぞくのために天堂をひらき、携香女のかなしみ
トウ テン ドウ ケイ コウ ジョ

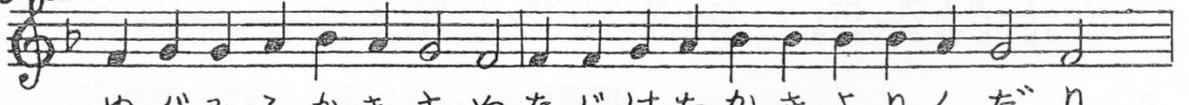


をなぐさめ、使徒になじがふくかつして、世界に



大いなる憐れみをたまいしをつたえさせたまえり
オホ アワ

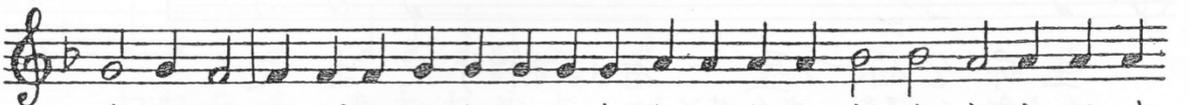
8 調



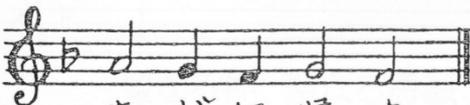
めぐみふかき主や、なんじはたかきよりくだり、



三日のほむりをうけて、我等を苦しみよりときた
ミツカ



まえり、わがいのちとふくかつなる主や、光えいは



なんじに帰す

光栄は父と子と聖神に帰す

その聖堂のトロパリ

名古屋の場合は「神現聖堂」なので「神現祭」

主よ、なんじが イオルダンに 洗を 受くるとき

聖三者の 敬拝は 顕れたり

けだし 父の こえ 爾を証して 至愛の子と名づけ

聖神も はとの形に ^{あらわれ} 顕れて ^{ことば} 言の確かなるを 示せり。

あらわれて 世界を 照らしし ハリス トス かみよ

光栄は なんじに 帰す。

今も何時も世々にアミン

使徒とひとしく同座なるもの忠実にして
シト ドウザ ユウジツ

神智なるリスのえき者聖なる神に選ばれ
シンチ ス シヤ シン エラ

たるふえリスの愛にみちたるうつわわが

くにの光照者使徒主教聖ニコライよ
コク ショウ シヤ ア シト シュキョウ セイ

汝の牧群のため および全世界のために
ボツ グン

生命を保つ聖三者に祈りたまえ
イノチ タモ サイ サン ミレ

輔祭 主よ、敬虔なる者を救い、及び我等に聴き給え

主や、敬虔なるものを救い、及び、我らに聴きたまえ

輔祭 世々に

【聖なる仲】

聖なる神、 聖なる勇毅 聖なる常生のものよ、

我等を あわ 憐れめよ、 (3回繰り返す)

光栄は 父と子と 聖神に帰す 今も何時も世世にアミン

聖なる常生のものよ、我等を あわ 憐れめよ、

聖なる神、 聖なる勇毅 聖なる常生のものよ、

我等を あわ 憐れめよ、

(スラブ語)

スヴィヤティイ ボジェ スヴィヤティイ クレプ キー スヴィヤティイベス メールトゥヌイ ポ ミルイ ナース

その日のポロキメン

日曜日は主日ポロキメン、祭日の場合は祭日の

輔祭 謹みて聴くべし、

主教 衆人に平安、

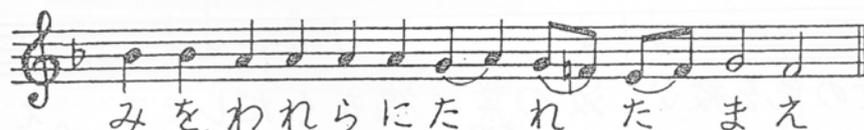
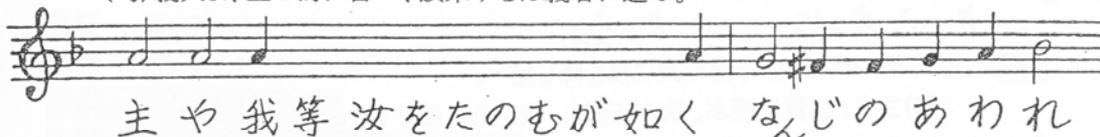
誦経 爾の神にも、

輔祭 睿智

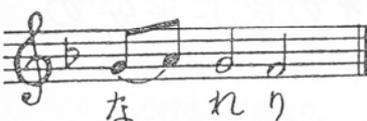
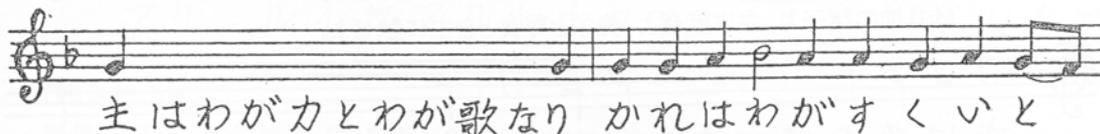
誦経 ポロキメン

【主日ポロキメン】主日の場合は八調のうちどれか

1調 主よ、我等爾を頼むが如く、爾の憐れみを我等に垂れ給へ。
(句) 義人よ、主の為に喜べ、讚美するは義者に適ふ。

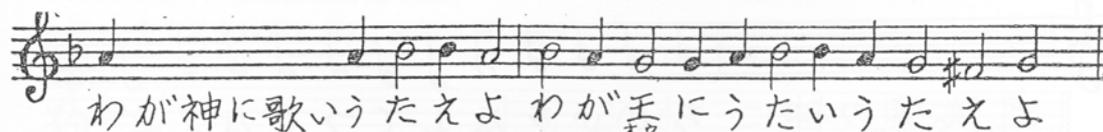


2調 主は我が力、我が歌なり、彼は我が救となれり。
(句) 主は厳しく我を罰したれども、我を死に付さざりき。



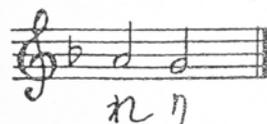
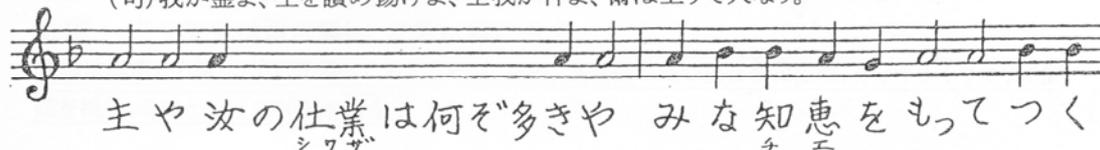
3調 我が神に歌ひ歌へよ、我が王に歌ひ歌へよ。

(句) 萬民よ、手を拍ち、喜びの声を以て神に呼べ。

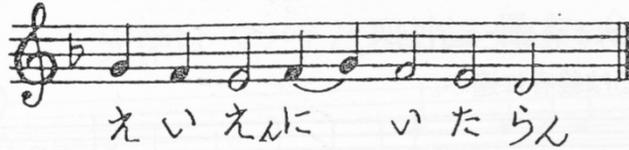
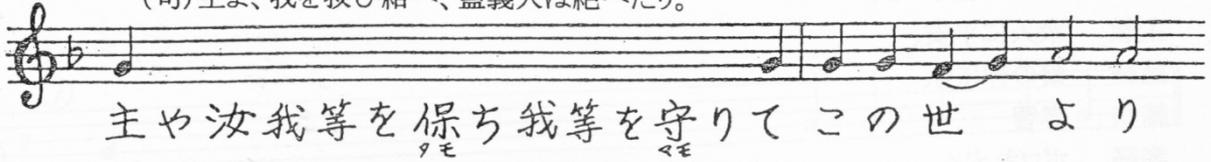


4調 主よ爾の工業は何ぞ多き、皆知恵を以て作り。

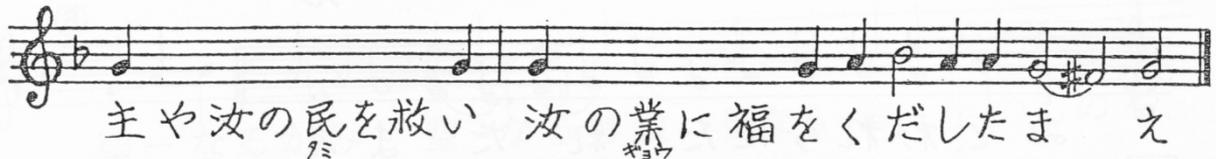
(句) 我が霊よ、主を讃め揚げよ、主我が神よ、爾は至りて大なり。



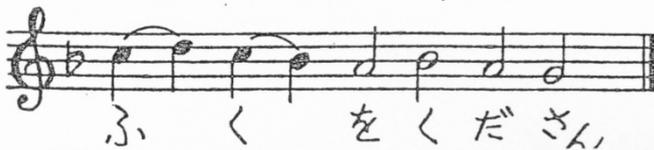
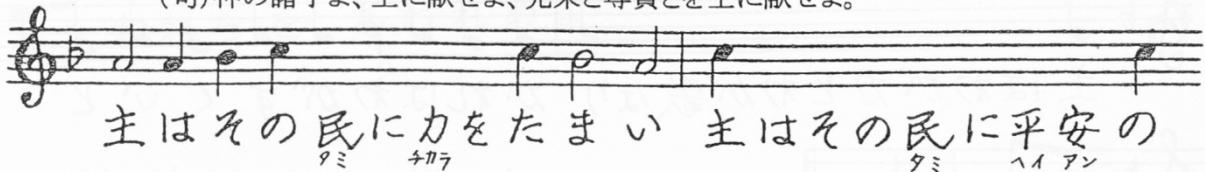
5調 主よ、爾は我らを保ち、我らを護りて、この世より永遠に至らん。
(句)主よ、我を救ひ給へ、蓋義人は絶へたり。



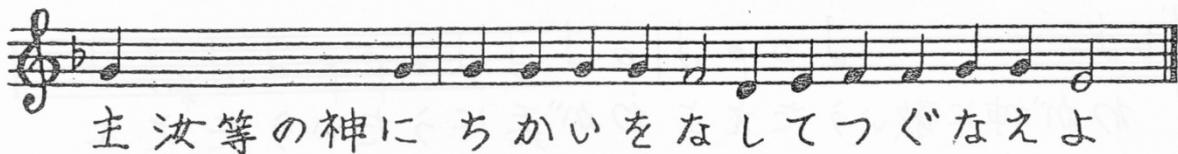
6調 主よ爾の民を救ひ、爾の業に福を降し給へ。
(句)主よ、我爾に呼ぶ、私の防固よ、我が為に黙す母れ。



7調 主は其の民に力を賜ひ、主は其の民に平安の福を降さん。
(句)神の諸子よ、主に献ぜよ、光栄と尊貴とを主に献ぜよ。



8調 主爾の神に誓を作して償へよ。
(句)神はイウデヤに知られ、その名はイズライリに大なり。



【使徒経の読み】

輔祭 睿智

誦経 聖使徒パウエルが〇〇に達する書の読み、

輔祭 謹みて聴くべし、

誦経 (使徒経を読む)

【福音前のアリルイヤ】指定された調で歌う

司祭 爾に平安

誦経 爾の神にも、アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、(詠) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイ

誦経 アリルイヤの第1句

(詠) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ

誦経 アリルイヤの第2句

(詠) アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ

1調

アリルイヤ アリルイヤ アー - - リルイヤ

2調

アリルイヤ アリル イヤ アー - - リルイヤ

3調

アリルイヤ アリルイヤ アリル - イヤ

4調

アリルイヤ アリルイヤ アー - - リルイヤ

5調

アリルイヤ アリルイヤ アリル - イヤ

6調

アリルイヤ アリルイヤ アリル - - イヤ

7調

アリルイヤ アリルイヤ アリルイヤ

8調

アリルイヤ アリルイヤ アリルイヤ

【福音經の読み】

輔祭 君や、聖使徒及び福音者(某)の福音を宣ぶる者に祝福せよ、
司祭 願くは神、光栄にして讚美たる聖使徒及び福音者(某)の祈祷によって、爾福音を宣ぶる者に多くの力ある言を賜はん、その至愛の子我が主イイススハリストスの福音の行るるが為なり。

輔祭 アミン、睿智、謹み立て、聖福音經を聴くべし
司祭 衆人に平安

(詠) 爾の神にも

輔祭 (某)による聖福音經の読み

(詠) 主や光栄は爾に歸し、光栄は爾に歸す、

輔祭 睿智、謹みて聴くべし。(福音經を読む)

(詠) 主や光栄は爾に歸し、光栄は爾に歸す、

<説教>

【重連禱】

輔祭 我等皆靈を全うして曰はん、我等の^{おもい}思を全うして曰はん、 (詠)主憐めよ

輔祭 主全能者、吾が列祖の神や、爾に禱る聆き納れて憐めよ、 (詠)主憐めよ

輔祭 神や爾の^{おおい}大なる^{あわれみ}憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る聆き納れて憐めよ、
(詠) 主憐めよ 三次

輔祭 我が國の天皇及び國を司るものの為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ 三次

輔祭 又教會を司る尊貴なる我等の東京の大主教全日本の府主教ダニイル及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に禱る、 (詠) 主憐めよ 三次

輔祭 又我等の兄弟、諸司祭、諸修道司祭、及びハリストスに於ける我等の衆兄弟の為に禱る、 (詠) 主憐めよ 三次

輔祭 又恒に記憶せらるる福たるこの聖堂の建立者、及び已に寐りし悉くの父祖兄弟、此の處と諸方とに葬られたる正教の者の為に禱る、 (詠) 主憐めよ 三次

輔祭 又此の至尊なる聖堂に者を献り、善業を行ひ、之に勞し、之に歌ひ、及び此に立ちて爾の大にして豊なる憐を仰ぎ望む者の為に禱る、 (詠) 主憐めよ 三次

司祭 蓋、爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何も世世に、 (詠) アミン

【死者の連禱】（必要に応じて）

- 輔祭 神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、（詠）主憐めよ 三次
- 輔祭 又寝りし神の諸僕(某)の^{たましい}霊の安息のため、及び彼等に凡そ自由と自由ならざる罪の赦されんがために禱る、（詠）主憐めよ 三次
- 輔祭 主神が彼等の^{たましい}霊を諸義人の安息する所に入れ給わんことを禱る （詠）主憐めよ 三次
- 輔祭 彼等に神の憐れみと天国と諸罪の赦とを賜わんことをハリストス我が死せざる王及び神に願う、（詠）主賜えよ
- 輔祭 主に禱らん、（詠）主憐めよ
- 司祭 （高声）蓋ハリストス我等の神や、爾は寝りし爾の諸僕某の復活と生命^{いのち}と安息なり、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命^{いのち}を施す爾の神^{しん}とに献ず、今も何時も世世に、（詠）「アミン」



【啓蒙者の連禱】

- 輔祭 啓蒙者や、主に祈るべし、（詠）主憐めよ
- 輔祭 信者や、啓蒙者の為に禱らん、願くは主は彼等に憐を垂れん、（詠）主憐めよ
- 輔祭 眞實の言を以て彼等を啓蒙せん、（詠）主憐めよ
- 輔祭 義の福音經を彼等に啓かん、（詠）主憐めよ
- 輔祭 彼等をその聖公使徒の教會に一にせん、（詠）主憐めよ
- 輔祭 神や、爾の恩寵を以て、彼等を救ひ憐み佑け護れよ、（詠）主憐めよ
- 輔祭 啓蒙者や、爾等の首を主に屈めよ、（詠）主爾に
- 司祭 願くは彼等も我等と偕に、爾父と子と聖神の至尊至榮の名を讃揚せん、今も何時も世世に、（詠）アミン
- 輔祭 衆啓蒙者出でよ、啓蒙者出でよ、衆啓蒙者出でよ、啓蒙者一人もなく、唯信者復又安和にして主に禱らん、（詠）主憐めよ
- 輔祭 神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、（詠）主憐めよ
- 輔祭 叡智
- 司祭 蓋凡そ光榮尊貴伏拜は爾父と子と聖神に^{いつ}歸す、今も何時も世世に、（詠）アミン

【信者の連禱】

- 輔祭 我等復又安和にして主に祈らん、（詠）主憐めよ
- 輔祭 上より降る安和と我等が霊の救の為に主に禱らん、（詠）主憐めよ

輔祭 全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の為に主に祷らん、
(詠) 主憐めよ

輔祭 此の聖堂、及び信と慎と神を畏るる心とを以て此に来たる者の為に主に祷らん、
(詠) 主憐めよ

輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に祷らん **(詠) 主憐めよ**

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救い憐み護れよ、 **(詠) 主憐めよ**

輔祭 叡智

司祭 我等常に爾が権柄の下に護られて、光栄を爾父と子と聖神に献ずるが為なり、今も何時も
 世世に、 **(詠) アミン。**

【大聖入】

選択 1

ヘルビムの歌 No.1 ボルトニヤンスキー

われらつつしんで、ヘルビムにのり、ヘルビム
 にのり、せいさくのうたをいのちをほど
 こすの、せい三者に、たてまつりて、この世の
 つとめをしりぞくべし、しりぞくべし

司祭 願くは主神はその国に於いて、我が国の天皇及び国を司るものを常に記憶せん、今も何時も世世に、

司祭 願くは主神は我等の府主教、東京の大主教、……を常に記憶せん、今も何時も世世に、

司祭 願くは、主神はその国において常に記憶せらるる(某)記憶せん、今も何時も世世に、

司祭 願くは主神はその国において爾衆正教のハリストティアニン等を常に記憶せん、今も何時も世世に、

(詠) アミン

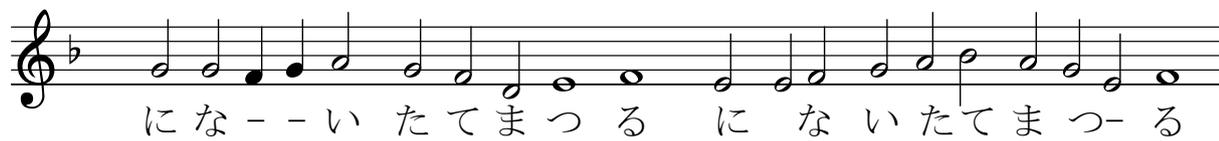
(2回)
 アミンかみのなみいるつかいは見え^ずして荷^な
 いたてまつる、ばぶつのつかさを、お^おい^いただけは
 なり、ア ril イヤ、ア ril イヤ、ア ril イヤ、アリ
 ルイヤ

選択 2 ヘルビムの歌 スタレツカヤ

わ - - - - れら おおみ - - - - つ - に
 して ヘルビ - - - - ムを
 かたどり ヘルビムを かたどり
 せ - - い 三 - - の うた - - - -
 - - を い - - の ちを ほどこす 三 者に
 うたいて 三 者に うたいて
 い - - - - ま この世 - - の おもんぱ
 かりを こと - - ごとく しりぞ - く べし
 しりぞく べ - し アミン

- 司祭 願くは主神はその国に於いて、我が国の天皇及び国を司るものを常に記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは主神は我等の府主教、東京の大主教、……を常に記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは、主神はその国において常に記憶せらるる(某)記憶せん、今も何時も世世に、
- 司祭 願くは主神はその国において爾衆正教のハリストティアニン等を常に記憶せん、今も何時も世世に、

(詠) アミン

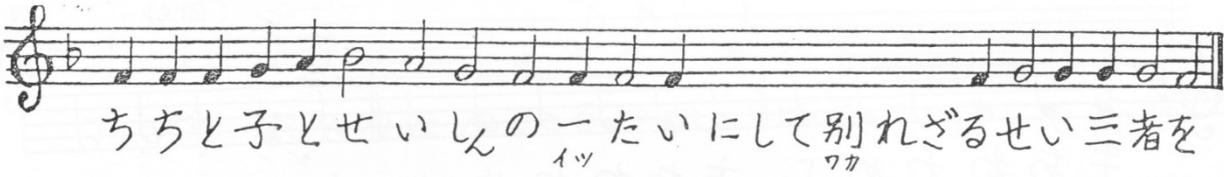


【増連禱】

- 輔祭 我等主の前に我が祈りを増し加へん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 献げたる尊き祭品の為に主に祈らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 子の聖堂及び信と慎みと神を畏るる心とを以て此に来たるものの為に主に祈らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
 輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が霊体の守護者を賜はんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 我等の霊に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 我等の生命の終が「ハリストシアニン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、 (詠) 主賜へよ
 輔祭 至聖、至潔にして、至りて讚美たる我等の光栄の女宰、生神女、永貞童女マリヤと諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て並に悉くの我等の生命を以てハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に、
 司祭 爾の独生子慈憐に因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神しんと偕に崇め讚めらる、今も何時も世世に、 (詠) アミン
 司祭 衆人に平安 (詠) 爾の神しんにも

【安和の接吻】

輔祭 我等、互に相愛すべし、同心にして承け認めんが為なり、



【信 経】

輔祭 門、門、敬みて聴くべし、

我信ず、一の神・父^{かみ ちち} 全能者、天と地、見ゆると見えざる萬物^{ばんぶつ}を造りし主を。

又信ず、一の主イイスス・ハリストス 神^{どくせい}の獨生の子、萬世^{よろずよ}の前に父より生れ、

光よりの光、真^{まこと}の神よりの真^{まこと}の神、生れし者にて造られしに非ず、

父と一体にして萬物彼に造られ、我等人人の為、又我等の救いのために天より

降り^{くだ}、聖神^{せいしん}及び童貞女^{どうてい}マリヤより身を取り人となり、我等のために、ポンティ・

ピラトの時 十字架^{くぎ}に釘うたれ、苦しみを受け葬^{ほう}むられ、第三日に聖書にかな

いて復活し、天^{のぼ}に升起、父の右^ざに坐し、光栄^{あらわ}を顕して 生ける者と死せし者と

を 審判するためにまた来り、その国終りなからんを。

又信ず、聖神^{せいしん}・主^{いのち}・生命を施す者、父より出で、父及び子と共に^ほ捧まれ讃めら

れ、預言者^{よげんしゃ}を以てかつて言いしを。

又信ず、一の聖なる公^{おおやけ}なる使徒の教会を。

我認む、一の洗礼を^{もつ} 以て罪^{ゆる}の赦しを得るを。

我望む、死者の復活、並に来世^{らいせ}の生命^{いのち}を、「アミン」。

【平和の憐れみ(親しみの捧げもの)】

選択 1

輔祭 正しく立ち畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、

へいわと あわれみ 讃 揚 の まつ り を

司祭 願くは我が主イイスス・ハリストスの恩、神父の慈^{かみちち}み聖神の親みは、爾衆人と偕に在らんこと

を

(詠) 爾の神にも

司祭 心上に向ふべし、

(詠) 主に向かへり、

司祭 主に感謝すべし

(詠) 父と子と聖神、一体にして……

なんじの神にも 主にむかえり ちちと子とせい神、
一体にして別れざる聖三者は、とみおがまるべし

司祭 凱歌を歌ひ、よび叫びて曰く、

せいせいせいなる主サワオ、天地になんじの光
えいはあまねしいとたかきにオサナ、主の名に
て来たるものはあがめほめらる、いとたかき
にオサナ

司祭 取りて食へ、是我が体、爾等の為に擘かるる者、罪の赦を得るを致す。

(詠) アミン

司祭 皆之を飲め、之我の新約の血、爾等及び衆くの人々の為に流さるる者、罪の赦しを得るを致す、

(詠) アミン

司祭 爾の賜を、爾の諸僕より、衆の為一切の為に爾に献りて、

(詠) 主や、爾を崇め歌い、………

アミン アミン 主や なんじをあが
めうたい、なんじをほめあげ、なんじに感謝し、わがかみ
かなしゃ
やなんじにいのるなんじにいのる

選択 2

輔祭 正しく立ち畏れて立ち、敬みて安和にして聖なる献物を奉らん、

へい わと あわれみ 讃揚のまつりを

司祭 願くは我が主イイスス・ハリストスの恩、神父の慈み^{かみちち}聖神の親みは、爾衆人と偕に在らんことを

(詠) 爾の神にも

司祭 心上に向ふべし、

(詠) 主に向かへり、

なんじの神にも 主にむかえり

司祭 主に感謝すべし

ちちと子と^{せい}聖一神、一たいにして分かれざる
 聖三者に伏しおがむは当然にして義なり。

司祭 爾を歌頌し、爾を讃揚し、爾を讃美し、爾に感謝し、爾が一切治むるところに於て、爾に伏し拝むは当然にして義なり、蓋爾と爾の独生子と爾の聖神は、言い難く、知り難く、見るべからず、測るべからず、永く在り、恒に変らざる神なり、爾は我等を無より有となし、陥りし者をまた起し、及び我等を天に昇らしめて、爾が来世の国を賜うに至るまで万事を行いて止めず、これ等のために、凡そ我等が知る所、知らざる所、頭れし所、頭れざりし所の我等に賜わりし諸恩のために、我等爾と爾の独生子と爾の聖神とに感謝す、又この奉事のために爾に感謝す、爾之を我等の手より領くるを甘んじ給えり、然れども千々の神使首及び万々の神使ヘルビム及びセラフィム、六翼の者、多目の者、高く翔る者、翼を具うる者は爾の前に立ちて

司祭(高声)凱歌を歌ひ、よび叫びて曰く、

せーい せーい 聖なるかな 主サワオフ
 なんじの光えいは 天地にあまねし
 至とたかきに オサンナ 主の名によって
 来たるものは あがめ讃めらる
 至とたかきに オサンナ

司祭 人を愛する主宰や、我等も此の福たる軍と偕によびて曰う、聖なる哉、至聖なる哉、爾と爾の独生子と爾の聖神、聖なるかな、至聖なるかな、爾の光栄は威厳なり、爾は爾の世界を愛して、爾の独生子を賜うに至り、凡そこれを信ずる者に沈淪を免れて永生を得せしむ、彼来りて、凡そ我等に於ける定制を成全し、付されし夜、正しく言へば親ら己を世界の生命のために付し夜、其聖にして至浄無玷なる手に餅を取り、感謝し、祝讃し、成聖し、擘きて其聖なる門徒及び使徒に予へて曰へり

司祭(高声)取りて食へ、是我が体、爾等の為に擘かるる者、罪の赦を得るを致す。(詠) アミン

司祭 同く晚餐の後に爵を執りて

司祭(高声)皆之を飲め、之我の新約の血、爾等及び衆くの人々の為に流さるる者、罪の赦しを得るを致す、
(詠) アミン



司祭 故に我等此の救いを施す誠め、及び凡そ我等のために有りし事、すなわち十字架、墓、第三日の復活、天に昇る事、右に坐する事、光栄なる再度の降臨を記憶して

司祭(高声)爾の賜を、爾の諸僕より、衆の為一切の為に爾に献りて、



司祭 我等また爾にこの靈智なる無血の奉事を献じて、願い祈り切に求む、爾の聖神を我等及びこのそなえたる祭品に遣し給へ

輔祭 (リピダを置き司祭の側に立ち、二人宝座の前に立って三次躬拝し、黙禱して、)第三時に爾の至聖神を爾の使徒に遣わしし至善の主や、之を我等より取り上ぐるこなかれ、なお我等爾に祈る者のうちにこれを新たにせよ、

(句) 神や、潔き心を我に造り、正しき靈を私の裏に改め給へ、

第三時に爾の至聖神を爾の使徒に遣わしし至善の主や、之を我等より取り上ぐることなかれ、なお我等爾に祈る者のうちに之を新たにせよ、

(句) 我を爾の顔^{かほ}より逐うこと勿れ、爾の聖神を我より取り上ぐること勿れ、

第三時に爾の至聖神を爾の使徒に遣はし至善の主や、之を我等より取り上ぐることなかれ、なお我等爾に祈る者のうちに之を新たにせよ、(輔祭首をかがめてオラリをとり聖パンを指し低声で)

輔祭 (司祭に向かって) 君や、聖餅に祝福せよ、

司祭 (十字を聖パンの上に画して)、この餅をもって、爾のハリストスの尊体と成し、

輔祭 「アミン」君や、聖爵に祝福せよ、

司祭 (十字を画して) 此の爵中のものをもって、爾のハリストスの尊血と成し、

輔祭 「アミン」(ポティールとディスコスを指して、) 君や、二の物に祝福せよ、

司祭 (十字を画して) 爾の聖神をもって之を変化せよ、

輔祭 「アミン」「アミン」「アミン」

輔祭 (首を司祭の前に屈めて) 聖なる君や、我を記憶せよ、

司祭 主・神は其国に於て、恒に爾を記憶せん、今も何時も世世に、

輔祭 「アミン」(元の場所に戻りリピダをとって聖祭品を前のように扇ぐ)

司祭 願くは此は領くる者のために、^{たましい}靈の警醒となり、諸罪の赦しとなり、爾が聖神の体合となり、天国を得ることとなり、爾における勇敢となり、審案或は定罪とならざらんことを、

又この靈智なる奉事を、信をもって寝りし元祖・列祖・太祖・預言者・使徒・伝道者・福音者・致命者・表信者・節制者、及び凡そ信をもって終りし義なる^{たましい}靈のために爾に献ず、

(輔祭は炉儀を宝座の四方に行い、生死者を記憶する)

司祭 特に至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光荣の女宰、生神女・永貞童女マリヤの為、

【常に福】12 大祭は変わる(第9 歌頌イルモスと附唱)

トバリ8調のメロディによ

つねにさいわいにしてま^{マコト}たくきずなき生神女。
シヨク シン ジョ

わが神の母なるなんじをさいわいなりととの^{マコト}るは

真にあたれり、ヘルビムよりとくとくセラヒムに並びなく
マコト マコト

さかえ、みさおをやぶらずして神言葉を生みし、

じつの生神女たるなんじをあがめほむ

司祭 主や尊貴なる我等の(府司祭、大司祭、司祭)()を記憶し、彼(等)を平安、無難、尊貴、壮健、長寿なる者、及び爾が真実の言を正しく伝えるものとして、爾の聖なる教会に与え給へ、

(詠) 万民をも

司祭 並びに我等に口を一にし心を一にして、爾父と子と聖神の至尊至厳の名を讃栄讃頌するを賜へ、
 今も何時世世に、 (詠) アミン

司祭 願くは大なる神、我が救主イイス・ハリストスの憐みは、爾衆人と偕に在らんことを

(詠) 爾の神にも

万民をも アミン 爾の神にも

【増連禱】

輔祭 我等諸聖人を記憶して復又安和にして主に祈らん (詠) 主憐めよ

輔祭 已に献ぜられ及び聖にせられし尊き祭品の為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ

輔祭 人を愛する我が神が、之を其^{その}聖なる天上の無形の祭壇に置き、屬神の馨香として享け、我等に報
 いて、神妙の恩寵と聖神^oの賜とを降すが為に禱らん、 (詠) 主憐めよ
輔祭 我等諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが為に主に禱らん、 (詠) 主憐めよ
輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ
輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
輔祭 平安の神使、正しき教導師、吾が靈体の守護者を賜はんことを主に求む、(詠) 主賜へよ
輔祭 我等の罪と過とを宥め赦さんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
輔祭 我等の靈に善にして益ある事、及び世界に平安を賜はんことを主に求む、(詠) 主賜へよ
輔祭 我等の生命の余日を平安と痛悔とを以て終らんことを主に求む、 (詠) 主賜へよ
輔祭 我等の生命の終が「ハリストシアニン」に適ひ、疾なく、耻なく、平安なること、及びハリストスの畏る
 可き審判に於て宜しき對をなすを賜はんことを求む、 (詠) 主賜へよ
輔祭 信の同一と聖神の体合とを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、並に悉くの我等の生命を
 以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
司祭 主宰や、我等に、勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾天の神・父をよびて言ふを賜へ、

天主經

司祭 (高声) 主宰や、我等に、勇を以て、罪を獲ずして、敢て爾 天の神・父をよびて言うを賜え、
衆人 天に在す我等の父や、

願わくは 爾^{なんじ}の名は聖とせられ、

爾^{なんじ}の国は来たり、

爾^{なんじ}の旨は天に行わるるが如く地にも行われん、

我が日用の糧^{かて}を 今日我等に与え給え、

我等に 債^{おいめ}ある者を我等免^{ゆる}すが如く、我等の 債^{おいめ}を免^{ゆる}し給え、

我等を 誘^{いざない}に導かず、なお我等を凶悪より救い給え、

【ギリシア語】 Πάτερ ἡμῶν, ὁ ἐν τοῖς οὐρανοῖς· ἁγιασθήτω τὸ ὄνομά σου ἐλθέτω ἡ βασιλεία σου· γενηθήτω τὸ θέλημά σου, ὡς ἐν οὐρανῷ καὶ ἐπὶ τῆς γῆς. Τὸν ἄρτον ἡμῶν τὸν ἐπιούσιον δὸς ἡμῖν σήμερον· καὶ ἄφες ἡμῖν τὰ ὀφειλήματα ἡμῶν, ὡς καὶ ἡμεῖς ἀφίεμεν τοῖς ὀφειλέταις ἡμῶν· καὶ μὴ εἰσενέγκῃς ἡμᾶς εἰς πειρασμόν, ἀλλὰ ῥῦσαι ἡμᾶς ἀπὸ τοῦ πονηροῦ.

【スラブ語】 Отче наш, Иже еси на небесех! Да святится имя Твое, да приидет Царствие Твое, да будет воля Твоя, яко на небеси и на земли. Хлеб наш насущный даждь нам днесь, и остави нам долги наша, якоже и мы оставляем должником нашим, и не введи нас во искушение, но избави нас от лукаваго.

【ルーマニア語】*Tatăl nostru, Care ești în ceruri, sfințească-se numele Tău, vie împărăția Ta, făcă-se voia Ta, precum în cer așa și pe pământ; pâinea noastră cea spre ființă dă-ne-o nouă astăzi, și ne iartă nouă greșelile noastre, precum și noi iertăm greșișilor noștri, și nu ne duce pe noi în ispită, ci ne izbăvește de cel rău.*

【英語】 Our Father, who art in the Heaven, hallowed be Thy name, Thy Kingdom come, Thy will be done on earth as it is in heaven, Give us this day our daily bread, and forgive us our debts, as we forgive our debtors; and lead us not into temptation, but deliver us from the evil one.

司祭 蓋国と権能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、(詠)「アミン」

司祭 衆人に平安、

(詠) 爾の神にも、

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

(詠) 主爾に、

司祭 (高声) 爾が獨生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に讃揚せらる、今も何時も世世に、

(詠)「アミン」

輔祭 謹みて聴くべし、

司祭 (司祭聖ポティールを挙げて、高声) 聖なる物は聖なる人に、

(詠) 聖なるはただひとり、主なるはただひとり、神・父の光栄を 顕す イイスス・ハリス トス なり、
「アミン」

選択 1

聖なるはただひとり 主なるはただひとり

神父の光栄を顕す イイスス ハリス トス なり アミン

選択 2

聖なるはただひとり 主なるはただひとり

神父の光栄を顕す イイスス ハリス トス なり アーミン

【領聖詞】 その日の領聖詞

日曜日 選択1

主日領聖詞
第148聖詠とともに

Ekaterina K.

天より主を讃め揚げよ、いとたかきに
ほあ 至 高

繰り返す

かれを讃め揚げよ。アリアルイヤ、
彼ほあ

アリアルイヤ、アリアルイヤ

日曜日 選択2

神品領聖の時に 領聖詞

ЛЮБОВЬ. Т'

天より主を讃め揚げよ 至とたかきに
主を讃め揚げよ かれを讃めあげよ
アリアルイヤアリアルイヤ

領 聖

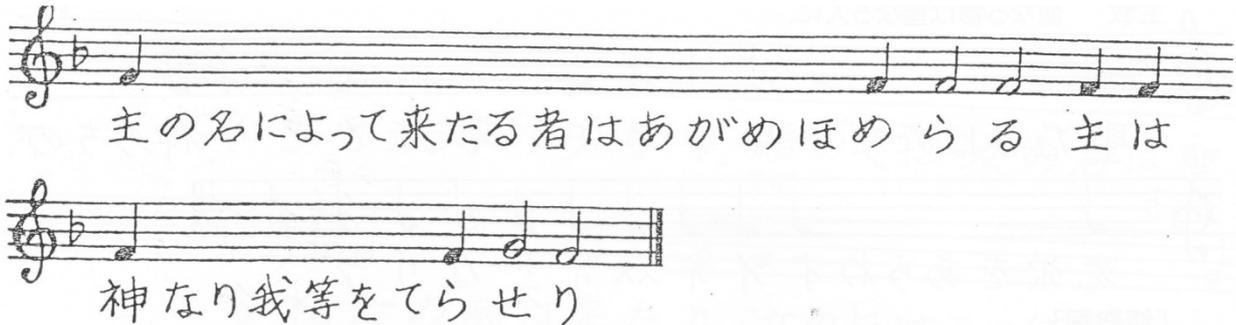
神品領聖

(王門を開き、輔祭躬拝一次、聖ポティールを受け、門内に至り、聖ポティールを挙げ、衆人に示して)、

信徒領聖

司祭 神を畏るる心と信とを以て、近づき来たれ、

選択 1



Handwritten musical notation on a five-line staff with a treble clef and a key signature of one flat (B-flat). The melody consists of a series of quarter notes and half notes. Below the staff, the lyrics are written in Japanese.

主の名によって来たる者はあがめほめらる 主は
神なり我等をてらせり

選択 2

(詠) 主の名に依^ほって来たる者は崇め讃めらる、主は神なり、我等に臨めり。



Printed musical notation on a five-line staff with a treble clef and a key signature of one flat. The melody is printed in black ink. Below the staff, the lyrics are written in Japanese.

主の名によって 来たるものは あがめ讃めらる
主は かみ なり われらに のぞめり

領聖祝文

主や我信じ、且つ承^かけ認^うめて、爾^{なんじ}を^{なんじ}実^{なんじ}にハリストス生活の神の子、罪人を救うが為に世に来りし者となす、衆^{しゅうざいにん}罪人のうち我第一なり、

また信ず、これはすなわち爾^{なんじ}が至^{なんじ}浄^{しじょう}の体^{たい}、これはすなわち爾^{なんじ}が至^{なんじ}尊^{しそん}の血^{なんじ}なりと、ゆえに爾^{なんじ}に祈^{なんじ}る、我^{あわれ}を憐^{あわれ}み、我^{あわれ}が自由と自由ならずして、言^{ことば}と行^{ことば}いにて、知ると知らずして、犯^{おか}しし諸^{しよざい}罪^{ゆる}を赦^{ゆる}し給^{ゆる}え、

並びに我に定^{ていざい}罪^{なんじ}なく、爾^{なんじ}が至^{なんじ}浄^{しじょう}なる機^{きみつ}密^うを領^{ゆる}けて、罪^{ゆる}の赦^{えいせい}しと永^う生^{たま}とを得^{たま}るをいたさせ給^{たま}え「アミン」

神の子や、今我を爾^{なんじ}が機^{なんじ}密^{きみつ}の筵^{えん}に與^{あずか}る者として容^いれ給^{たま}え、蓋^{なんじ}我^{なんじ}爾^{なんじ}の仇^{あだ}に機^{きみつ}密^{きみつ}を告^{なんじ}げざらん、

又爾^{なんじ}にイウダの如^{ごと}き接^{せつぷん}吻^{うとう}を為^{ごと}さざらん、すなわち右^{なんじ}盜^うの如^いく爾^{なんじ}を承^{なんじ}け認^{なんじ}めて曰^いう、主^{なんじ}や、爾^{なんじ}の国^おに於^おいて我^おを記^{きおく}憶^{なんじ}せよと、主^{なんじ}や、祈^{なんじ}る爾^{なんじ}の聖^{きみつ}なる機^う密^うを領^うくるは、我^{なんじ}が為^{しんあんあるい}に審^{ていざい}案^{ていざい}或^{ていざい}は定^{ていざい}罪^{ていざい}とな

らず、すなわち^{れいたい いやし}霊体の 醫 とならんことを、

復活の領聖詞¹

(詠) ハリストスの聖体を領け、不死の^ういずみを飲めよ、
ア ril ル イ ヤ、ア ril ル イ ヤ、ア ril ル イ ヤ

No.2 モスコー調 (No.4 〈男声〉 p. 226)

Nina H. 編曲

The first system of the musical score is written for voice and piano. It features a treble clef and a bass clef. The melody is in a minor key (one flat). The lyrics are: ハリス トスの せ いた い を 領 け 不 死 の い ず み を 飲 め よ

The second system of the musical score continues the melody and accompaniment. The lyrics are: ア ril ル イ ヤ ア ril ル イ ヤ ア ril ル イ ヤ

感謝の祈りと退出

領聖後 選択 1

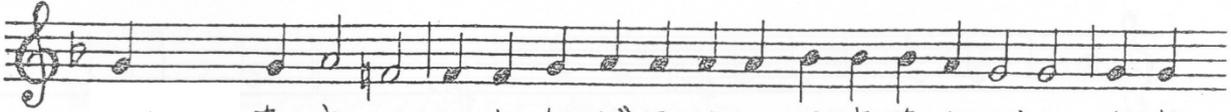
司祭 (衆に祝福し、高声) 神や、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降せ、

(詠) 我等 すでに真の光を^み観、天の^{せいしん}聖神を受け、正しき信を得て、分れざる聖三者を拜む、彼我等を
救い給えばなり、

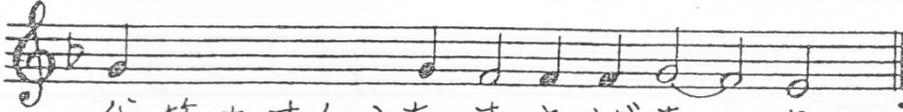
¹ 本来復活祭の領聖詞だが、日本では一般的に領聖時に歌われている。



我等既に真マコトのひかりを見、天のせいしんをうけただしき



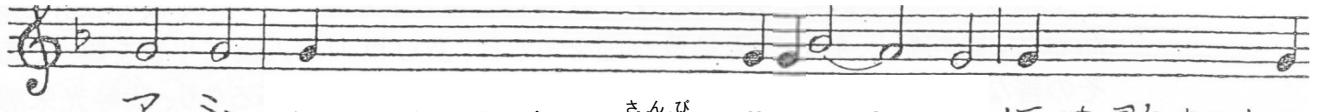
信をえて、わかれざるせい三者サンシャをおがむ、かれ



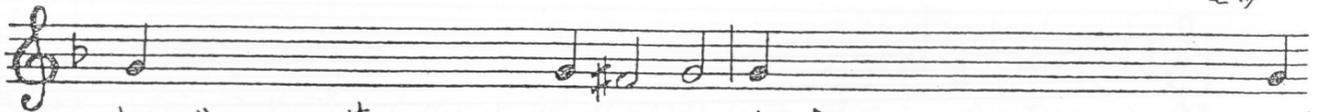
我等をすくいたまえばなり

司祭 今も何時も世世に、

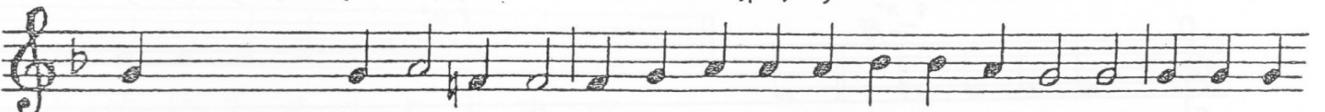
(詠) 「アミン」主や、願くは我が口は讚美さんびに満てられて、我等爾の光栄を歌わん、爾なんじ我等に、
神聖にして不死いのちなる生命を施す 爾なんじの聖なる機密きみつを領くるを許せばなり、祈る我等を爾の成
聖まもに護り、終日 爾なんじの義を習わしめ給え、「ア ril l i ya」「ア ril l i ya」「ア ril l i ya」



アミン 主や願くは我が口は讚美さんびに満てられて ほめ歌を以てモツ



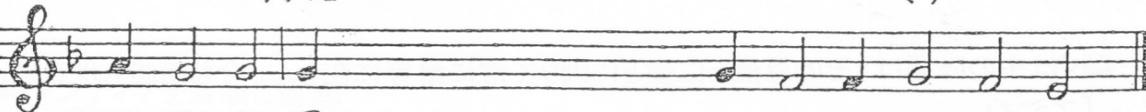
わが口に満たしめたまえ、生命いのちをほどこす聖なる汝



の機密キミツを受くるを、われらにゆるせばなり、いのる



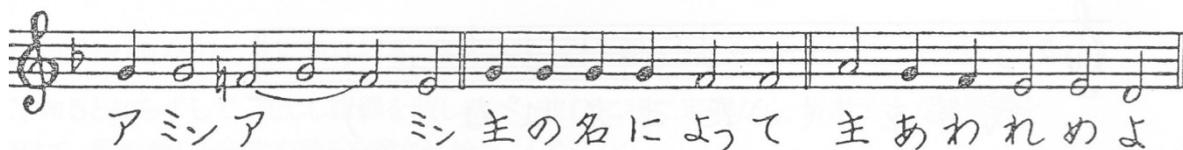
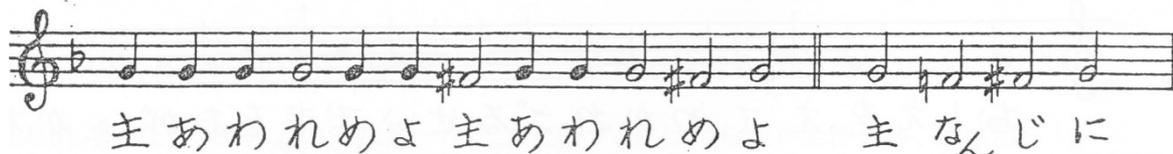
我等を潔イサギヨきにまもり、日々ヒヒに汝の道ミチをならわしめ



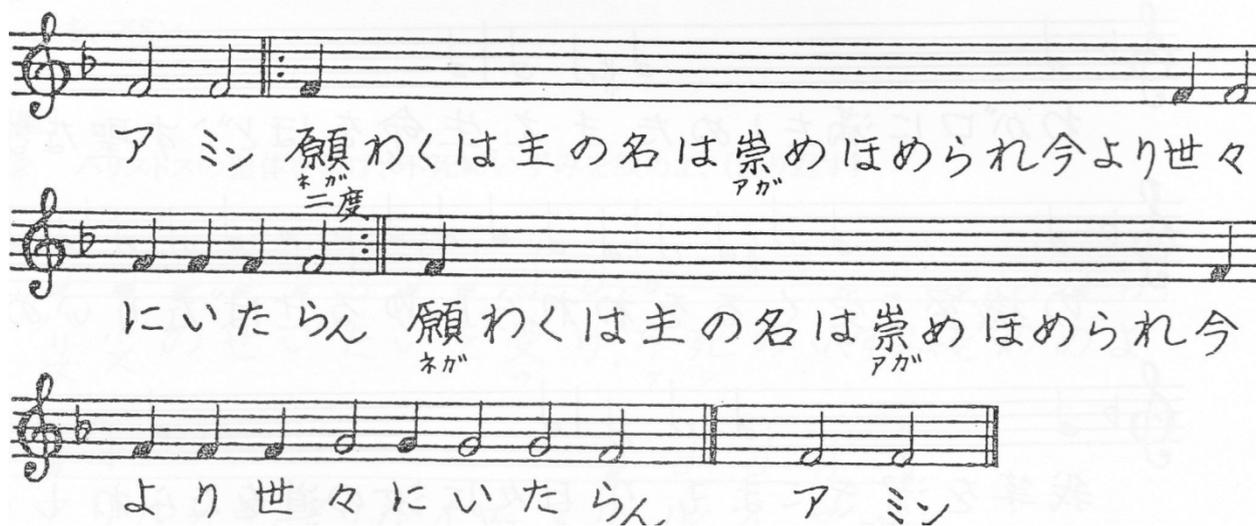
たまえ、ア ril l i ya、ア ril l i ya、ア ril l i ya

輔祭 謹みて立て、神聖、至浄、不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を領けて、宜しく主に感謝すべし、

輔祭 紙屋爾の恩寵を以て我等を助け救ひ憐み護れよ、 (詠) 主憐めよ、主憐めよ
 輔祭 此の日の純全、成聖、平安、無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、
 並に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、 (詠) 主爾に
 司祭 蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神^oに献ず、今も何時も世世に、
 (詠) アミン
 司祭 平安にして出づべし、 (詠) 主の名に因りて
 輔祭 主に祷らん、 (詠) 主憐めよ



司祭 **【升壇外の祝文】**爾を讃揚する者に福を降し、及び爾を恃む者を聖にする主や、爾の民を救ひ、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教会の充満を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が申請の力を以て彼等を光榮し、及び我等爾を恃む者を遺すなかれ、爾の世界と爾の諸教会と諸司祭と、我国の天皇及び国を司る者、及び爾の衆人為に平安を賜へ、蓋凡その善なる施し、凡その全備なる賜は、上より爾光明の父より降るなり、我等光榮感謝伏拝を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、



司祭 願わくは主の降福は、その恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、
 (詠) 「アミン」
 司祭 ハリストス神我等の恃みや、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す、

光栄は父と子と聖神に帰す今もいつも世々にアミン

主あわれめ主あわれめ主あわれめよ ぶくをくだけせ

司祭 [発放詞]

死より復活せしハリストス我等の眞の神は、其至浄なる母、^{その}光栄にして讚美たる聖使徒、我等の聖神父コンスタンティノポリの大主教金ロイオアン、(当日の聖人)及び諸聖人の祈禱に因りて我等を憐み救はん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

(詠) アミン

領聖後 選択 2

神や、爾の民を救い
われらすでに まことの ひかりを見

天の 聖神^oを受け ただしき 信を得て

分かれざる 聖三者を おがむ

かれ われらを すくい たまえば なり

司祭 (高声) 今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」主や、願くは我が口は讚美に満てられて、我等爾の光栄を歌わん、爾^{なんじ}我等に、神聖にして不死なる生命^{いのち}を施す 爾^{なんじ}の聖なる機密^{きみつ}を領くるを許せばなり、祈る我等を爾の成聖^{まも}に護り、終日 爾^{なんじ}の義を習わしめ給え、「ア ril li ya」「ア ril li ya」「ア ril li ya」

司祭: 今も何時も世世に

アミン 主や、ねがわくは 我が口は 讚美に 満てられて
我等 爾の 光 - 栄 を うた わん なんじ われらに
神聖にして いのちを 施 こす なんじの 聖機密を 領くるを
ゆるせば な - り いのち、 我 等 を なんじの
成 - 聖に まも - り 終 日 爾の 義を 習わしめた ま - え
アリ ルイ ヤ アリ ルイ ヤ アリ ル - イ ヤ

輔祭 (北門を出で、王門前で) 謹みて立て、神聖・至浄・不死にして生命を施す天上の畏るべきハリストスの聖機密を領けて、宜しく主に感謝すべし、
(詠) 主憐めよ

輔祭 神や、爾の恩寵を以て我等を助け救い憐み護れよ、
(詠) 主憐めよ、

輔祭 此の日の純全・成聖・平安・無罪ならんことを求めて、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、
(詠) 主爾に

(司祭アンティミンスを置んで、福音経を持ち、アンティミンス上に十字を描き、高声)

司祭 蓋爾は我等の成聖なり、我等光栄を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

主 あわれめよ 主 あわれめよ 主 なんじに アミン

司祭 平安にして出づべし、

(詠) 主の名に因りて、

輔祭 主に禱らん、

(詠) 主憐めよ、



司祭 **升壇外の祝文** 爾を讃揚する者に福を降し、及び爾を恃む者を聖にする主や、爾の民を救い、及び爾の嗣業に福を降し、爾が教会の充満を守り、爾が堂の美なるを愛する者を聖にせよ、爾が神聖の力を以て彼等を光榮し、及び我等爾を恃む者を遺す勿れ、爾の世界と爾の諸教会と諸司祭と、我がの天皇及び国を司る者及び爾の衆人に平安を賜え、蓋凡の善なる施、凡の全備なる賜は、上より、爾光明の父より降るなり、我等光榮・感謝・伏拝を爾父と子と聖神に献ず今も何時も世世に、

(詠) 願くは主の名は崇め讃められて、今より世世に至らん (三次)



司祭 (高声)願くは主の降福は、其恩寵と仁愛とに因りて常に爾等に在らん、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

司祭 ハリストス神我等の恃みや、光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す、

**(詠) 光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に「アミン」
主憐めよ (三次) 福をくだせ、**

司祭 ハリストス我等の真の神は、其至浄なる母、光榮にして讃美たる聖使徒、我等の聖神父コンスタンティノポリの大主教金ロイオアン、聖(某)(本日聖人)及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり、

(詠) 「アミン」

萬寿詞

**(詠) 神よ、我が国の天皇を、及び国を司る者、
我等の(府)主教
及び正教のハリスティアニン等を 幾とせにも護り給え。**

.....
(司祭聖至聖所に入り、祭服を脱いで、主宰や今爾の言に循い云々、聖三祝文、天主經を誦する。)

金ロイオアンのトロバリ (8調)

爾が口の恩寵は火の光の如く輝きて全地を照し、
世界の為に無慾の実を得、我等の為に謙遜の高きを顕せり、
神父金ロイオアンや、なお 爾の言を以て訓えて、言なるハリストス神に
我等の ^{たましい} 靈の救われんことを禱り給え、

領聖感謝祝文

神や光栄は爾に帰す、神や、光栄は爾に帰す、神や、光栄は爾に帰す、

【第一祝文】主我が神や、爾我罪人を棄てずして、尚爾の聖なる機密に與る者と致させ給ふを爾に感謝す、我堪えざる者に爾が至浄なる天の賜を受くるを容し給うを爾に感謝す、主宰・人を愛する主、我等の為に死して復活し、我が靈と体とに恩を与え、之を聖にするが為に、我等にこの恐るべくして生命を施す機密を賜いし者や、求む、この機密は、我にも靈と体とを癒し、凡その敵の書を駆り、我が心の目を明かにし、我が靈の力を平安にし、恥を得ざる信とし、偽りなき愛とし、睿智を充たし、爾の誠めを守らしめ、爾が神聖の恩寵を益し、爾の国を嗣がしむる者となるを得せしめ給え、我はかくの如く、この機密にて爾の成聖に護られ、常に爾の恩寵を思い、また己が為に生活せず、すなわち爾我が主宰及び恩主の為に生活し、以て、永生の望をいただき、この世を離れて、永遠の息、彼の祝する者の絶えざる声、及び爾が顔の言いつされぬ美善を見る者の限りなき樂の所に至らん、蓋ハリストス我が神や、爾は爾を愛する者の真の望と言ひ盡されぬ樂なり、凡そ造を受けし者は爾を世々に讃め歌う、「アミン」

【第二祝文 聖大ワシリーの原文】主宰ハリストス神、萬世の王、萬物の造成者や、凡そ我に賜ひし所の諸善、且つ生命を施す至浄なる爾の機密を領けさせ給ひしを爾に感謝す、又爾に祈る、善にして人を愛する主や、我を爾が庇いの下に、爾が翼の蔭に護り、我に呼吸の絶えんとするに至るまで、潔き良心を以て、当然に爾の聖体聖血を領け、以て罪の赦しと永生とを得るを致させ給え、蓋爾は生命の糧、成聖の泉、諸善を賜う主なり、我等爾と父と聖神とに光栄を献ず、今も何時も世世に、「アミン」

【第三祝文「メタフラスト」の原詩】我が造成主甘んじて己の身を糧として我に与え、火にして不当者を焚く者や、求む我を焚くなかれ、すなわち吾が百体諸節心腹に入り、吾が諸罪の救を焚き、靈を浄め、思を聖にし、筋と骨とを固め、五官を明かにし、吾が全身を、爾を畏るる畏れに釘うち、常に我を庇い、我を保ち、我を害する諸の行いと言とより護り、我を浄め、我を滌ひ、我を飾り、我を治め、我を啓き、我を照し、我が復罪の住所たらずして、獨爾が聖神の住所たるを願し、凡その悪者凡その慾は、我、聖体の入るに依りて爾の家となりし者より逃ぐるごと、火より逃ぐるが如くならしめ給え、我その転達者として、諸の聖者、諸品の神使、爾の前駆、智慧なる使徒及び爾が無玷至浄の母を爾に進む、慈憐の主我がハリストスや、彼等の祈祷を容れて、爾の役者を光の子となし給え、蓋、獨り至善の主や、爾は我等の靈の成聖と光明なり、我等皆神と主宰に宜しき所の如く、日々に光栄を爾に献ず、

【第四祝文】主イイスス・ハリストス我等の神や、願くは爾の聖体は、我が為に永生となり、爾の尊血は、罪の赦とならん、願くはこの感謝の祭は、我が為に喜悦と壮健と安樂とならん、又畏るべき爾が再度の降臨の時、我罪人に、爾が光栄の右に立つを得せしめ給え、爾が至浄の母と諸聖人との祈祷に依りてなり、

【第五祝文 至聖生神女に捧ぐ】

至聖なる女宰・生神女、吾が味みたる靈の光、吾が憑恃とおおいと避所と慰藉と歡喜や、爾が我堪へざる者に、爾の子の至浄の体、至尊の血を領くる者となるを得せしめ給ひしを爾に感謝す、猶祈る、真の光を生みし者や、吾が心の靈目を明にせよ、不死の泉を生みし者や、我罪に殺されたる者を生かし給え、慈憐なる神の慈愛の母や、我を憐み、吾が心に傷感と悲痛、吾が思に謙遜、吾が虜となりし意念に呼還しを賜ひ、我に呼吸の絶えんとするに至るまで、罪を獲ずして、至浄なる機密の成聖を受けて、靈とからだとの醫を得るを致し、ならびに我に痛悔と承け認めとの涙を与えて、生涯爾を歌頌讚栄せしめ給え、蓋爾は世世に讚美と光栄とを満ち被る、「アミン」